

北海道旭川市（国内 8 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 6 年 11 月 12 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 4.4 万羽）

発生家きん舎の構造：低床式開放鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（ひな壇式 2 段 6 列、通路 3 本）

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は平野部に位置しており、周囲は水田に囲まれていた。水田には落ち粃が認められた。
- ② 調査時、当該農場付近には北に約 600m 離れた水田で、オオハクチョウ 15 羽が生息し多数の糞便が確認された。また、2 km の水田には 23 羽のオオハクチョウが確認された。農場から 3 km 付近には川があったが流れが速く、また 5 km に位置する貯水池には水がなく、いずれもカモ類は認められなかった。
- ③ 当該農場は低床式開放鶏舎 7 棟（うち 1 棟は空舎）及び焼却施設からなり、発生鶏舎は 7 棟並ぶ鶏舎の中央に位置していた。なお、従業員の事務所兼更衣室は、農場入口から 2 つ目の鶏舎（2 号舎）の 2 階部分に設置されていた。

3 通報までの経緯

- ① 農場長によると、発生鶏舎（11 月 11 日の通報時約 172 日齢）では約 7,200 羽の採卵鶏が飼養されており、平時の死亡羽数は 1 日当たり約 1～3 羽程度であったとのこと。
- ② 10 月 31 日、発生鶏舎で 15 羽の死亡が確認されたため、管理獣医師に写真を送付したところ、鶏伝染性気管支炎との診断であったとのこと。その後も高い水準で死亡が確認されていたが、11 月 8 日に 24 羽の死亡が確認され、鶏舎内で全体的に死亡鶏が確認されるようになったことから、11 日に家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 調査時、発生鶏舎では殺処分が終了しており、死亡鶏等の分布状況は確認できなかったが、農場長によると、鶏舎入口から中央付近までの壁側のケージラインで死亡鶏が確認され始め、その後全体的に死亡が確認されるようになったとのこと。なお、調査時、農場入口から最も離れた鶏舎で死亡鶏が鶏舎全体に散在して確認されたが、その他鶏舎では、特段の異状は確認されなかった。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には、農場長を含め従業員が 5 名おり、農場長は給餌器の稼働などの全体的な管理、その他 4 名の従業員は集卵作業・死亡鶏の回収作業等を担当しているとのこと。なお、農場長は全ての鶏舎に立入るが、担当鶏舎は従業員ごとに決まっており、発生鶏舎の担当は 1 名であったとのこと。

5 施設の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域入口には、普段、関係者以外立入禁止のプレートが付いたロープを張っているとのこと。また、外部車両が進入する際は、来場者自身で農場入口に設置された動力噴霧器で車両の足回りを消毒していたとのこと。なお、従業員の車両は、衛生管理区域外に駐車し、区域内には進入しないとのこと。
- ② 従業員が衛生管理区域に入る際は、2 号舎の 2 階部分にある事務所に直行し、同事務所において農場専用の作業着の着用、長靴交換、手指消毒を実施しているとのこと。

- ③ 外来者（自社の集卵担当、飼料会社、ペストコントロール業者等）が衛生管理区域内に入る際は、持参した農場内用の長靴を着用するが、更衣や手指消毒は行っていないとのこと。
- ④ 農場長以外の従業員が鶏舎に立入る際は、鶏舎入口に設置された消毒槽（逆性石けん、毎日交換）で長靴を消毒後、鶏舎内専用の長靴に履き替え、手指消毒をしていたとのこと。なお、農場長が鶏舎に立ち入る際は、鶏舎用長靴に履き替えることはなく、鶏舎入口の踏込消毒槽で鶏舎外用長靴を消毒し、鶏舎に立ち入っていたとのこと。
- ⑤ 各鶏舎は、冬場は基本的に全てのロールカーテンを閉めているが、日中に温度調整をする時のみ、モニター部分のカーテンを開けているとのこと。なお、各鶏舎のカーテン部分には金網（1.5cm×1.5cm 程度）が設置されていた
- ⑥ 鶏舎に設置されたロールカーテンは破れがあったが補修されていた。一方、鶏舎壁面には小動物が侵入可能と思われる隙間が複数確認された。
- ⑦ 農場長によると、集卵は従業員の手作業で行われ、トレーに集められた卵は、鶏舎外において、本社の集卵担当者に引き渡していたとのこと。その後、従業員は鶏舎内の死亡鶏を回収し、その日のうちに農場の端にある焼却炉で焼却していたとのこと。
- ⑧ 鶏糞は、鶏舎床面に堆積させ、月に2回、本社の除糞担当者1名が小型重機で鶏舎外に搬出していたとのこと。直近の除糞搬出作業は、11月6日～9日であったとのこと。なお、鶏糞の搬出には自社の車両を使用し、自社、肥料会社の施設又は鶏糞購入希望する農家の敷地で堆肥化处理されていたとのこと。
- ⑨ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、閉鎖系ラインで鶏舎内に繋がっていた。
- ⑩ 給与水には、未消毒の井戸水をろ過し給与しているとのこと。
- ⑪ 当該農場では、鶏舎毎にオールイン・オールアウトを行っているとのこと。発生鶏舎では9月中旬にオールアウトを行い、系列農場から10月3日に133日齢、4日に134日齢の鶏を導入していたとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場長によると、農場内ではキツネ及び野良猫を見かける他、鶏舎の屋根等でカラスを確認するとのこと。
- ② 調査時、各鶏舎でネズミが確認された他、発生鶏舎を含めた複数鶏舎でスズメが確認された。農場主によると、ネズミが鶏舎壁面の穴を破って侵入し、軒下を開けられた鶏舎壁面の穴から、スズメ等の野鳥が鶏舎内に侵入することがあるとのこと。農場主によると、ペストコントロール業者に依頼し、月に2回、鶏舎内に殺鼠剤やトラップを設置しているとのこと。

（以上）